

「学びのユニット」指導計画 2・3年下 A 歌唱



「旅立ちの日に」を主要教材にして、曲想とその変化を感じ取りながら音楽の構造や歌詞との関係を考え、速度の変化などを生かして合唱表現するために必要な技能を身に付けます。

「帰れソレントへ」では、速度の変化を転調や強弱とともに活用して表現を工夫し、ピアノ伴奏と合わせて歌う技能を身に付けます。「Top of the world」は、こうした学習を生かして拍子やシンコペーションのリズム、英語の発音などを身に付けて表現することを目指しています。

■ ユニットで育む音楽的な見方・考え方

手がかりにする〔共通事項〕

音色	リズム	速度	旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成
----	-----	----	----	-------	----	----	----

「旅立ちの日に」

- ・ 速度、強弱の変化と効果
- ・ 旋律のまとまり
- ・ パートの重なり方や役割、ピアノ伴奏との関わり
- ・ 楽曲全体の構成

「帰れソレントへ」

- ・ リズムの反復
- ・ 8小節を基本とする旋律のまとまり
- ※ 「旅立ちの日に」の音楽的な見方・考え方も活用

■ ユニットの学習指導要領の取扱い

A 表現 (1) 歌唱				
ア	イ		ウ	
	(ア)	(イ)	(ア)	(イ)
○	○			○

■ ユニットの目標の設定

知識及び技能	曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。[イ-(ア)] 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。[ウ-(イ)]
思考力・判断力・表現力等	歌唱表現に関わるイ-(ア)の知識やウ-(イ)の技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。[ア]
学びに向かう力	歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。

■ ユニットの評価規準 (観点ごと)

知識・技能	曲想と旋律のまとまりや音楽の構造との関わりについて理解している。 他の声部や伴奏を聴きながら合わせて歌う技能を身に付けている。
思考・判断・表現	歌唱表現に関わる知識 (曲想と旋律のまとまりや音楽の構造との関わり) や技能 (他の声部や伴奏を聴きながら合わせて歌う) を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。

この資料は、一般社団法人教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則っています。

「学びのユニット」指導計画 2・3年下 B創作



本ユニットでは、ラーメンに関する言葉を選択して、言葉のリズムを生かして反復させたり組み合わせたりし、まとまりのある旋律をつくる学習を展開します。「言葉を生かし」とは、言葉のリズムや抑揚を感じ取り、旋律のつながり方や反復によるまとまりを考えることです。いくつかの言葉の組み合わせや旋律の重なり方を工夫し、ラーメンに関する言葉による短い作品をつくることを目指します。

■ユニットで育む音楽的な見方・考え方

手がかりにする〔共通事項〕

音色	リズム	速度	旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成
----	-----	----	----	-------	----	----	----

- ・ 基本のリズムと言葉のリズムとの関係
- ・ 選んだ言葉の反復や重ね方
- ・ 旋律のつながり方や全体の構成

■ ユニットの学習指導要領の取扱い

A 表現 (3) 創作			
ア	イ		ウ
	(ア)	(イ)	
○	○		○

■ ユニットの目標の設定

知識及び技能	音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。[イ-(ア)] 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。[ウ]
思考力・判断力・表現力等	創作表現に関わるイ-(ア)の知識やウの技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する。[ア]
学びに向かう力	創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。

■ ユニットの評価規準 (観点ごと)

知識・技能	言葉のリズム、反復や組み合わせによるつながり方の特徴を理解している。 課題に沿った言葉を選択し組み合わせる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	創作表現に関わる知識(言葉のリズム、反復や組み合わせによるつながり方の特徴)や技能(課題に沿った言葉を選択し組み合わせる技能)を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。

この資料は、一般社団法人教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則っています。

「学びのユニット」指導計画 2・3年下 C鑑賞



「ブルタバ（モルダウ）」を主要教材にして、曲想と音楽の構造との関わりを理解して、音楽に対する価値意識を考える学習を展開します。音楽で表している情景に加えて歴史的背景との関わりを理解し、オーケストラの豊かな表現を鑑賞することを目指します。こうした学習を活用して交響詩「フィンランディア」や「組曲『展覧会の絵』から」を鑑賞し、それぞれの音楽のよさや美しさを味わって鑑賞することをねらいとしています。

■ ユニットで育む音楽的な見方・考え方

手がかりにする〔共通事項〕

音色	リズム	速度	旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成
----	-----	----	----	-------	----	----	----

「ブルタバ（モルダウ）」

- ・ 旋律を演奏する楽器の音色や響き
- ・ 拍子，速度，強弱の変化と効果
- ・ 旋律の反復や重なり，和音
- ・ 曲想の変化と楽曲全体の構成

交響詩「フィンランディア」

※ 「ブルタバ」の音楽的な見方・考え方を活用

■ ユニットの学習指導要領の取扱い

B鑑賞					
ア			イ		
(ア)	(イ)	(ウ)	(ア)	(イ)	(ウ)
○			○		

■ ユニットの目標の設定

知識及び技能	曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。[イ-[ア]]
思考力・判断力・表現力等	鑑賞に関わるイ-(ア)の知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。[ア-(ア)]
学びに向かう力	鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組む。

■ ユニットの評価規準（観点ごと）

知識・技能	曲想の変化と音楽で表そうとしている内容との関わりについて理解している。
思考・判断・表現	鑑賞に関わる知識（曲想の変化と音楽で表そうとしている内容との関わり）を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
主体的に学習に取り組む態度	鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組んでいる。

この資料は、一般社団法人教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則っています。

「学びのユニット」指導計画 2・3年下 D歌唱



「花」を主要教材にして、旋律のまとまりや形式と七五調の歌詞との関係を理解し、曲想を感じ取りながら表現することを目指します。また、日本語の子音や母音の発音、強弱や音域に応じた発声などの技能を身に付けながら表現を工夫します。

「荒城の月」は滝廉太郎の原作と山田耕筰補作編曲とを比較し、形式を生かして表現を工夫します。「椰子の実」ではこれらの学習を生かし、曲想と五七調の歌詞との関係などに着目して学習します。

■ ユニットで育む音楽的な見方・考え方

手がかりにする〔共通事項〕

音色	リズム	速度	旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成
----	-----	----	----	-------	----	----	----

「花」

- ・ 強弱や音域に応じた声の音色
- ・ 歌詞のまとまりと旋律のまとまりとの関係
- ・ 拍子、強弱の設定
- ・ 二部形式による楽曲全体の構成

「荒城の月」

- ・ 七五調の歌詞と旋律のまとまりとの関係
※ 「花」の音楽的な見方・考え方も活用

■ ユニットの学習指導要領の取扱い

A 表現 (1)歌唱				
ア	イ		ウ	
	(ア)	(イ)	(ア)	(イ)
○	○		○	

■ ユニットの目標の設定

知識及び技能	曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。[イ-(ア)] 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付ける。[ウ-(ア)]
思考力・判断力・表現力等	歌唱表現に関わるイ-(ア)の知識やウ-(ア)の技能を得たり生かしたりしながら，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。[ア]
学びに向かう力	歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。

■ ユニットの評価規準（観点ごと）

知識・技能	曲想と形式や歌詞との関わりについて理解している。 音域や強弱に応じた発声，子音や母音の発音などを身に付けている。
思考・判断・表現	歌唱表現に関わる知識（曲想と形式や歌詞との関わり）や技能（音域や強弱に応じた発声，子音や母音の発音など）を得たり生かしたりしながら，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。

この資料は，一般社団法人教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則っています。

「学びのユニット」指導計画 2・3年下 E 創作



本ユニットでは、地域の名物や名所を紹介するキャッチコピーを考え、それを説明する歌詞とともに言葉のリズムや抑揚を生かして短い旋律をつくります。そして、キャッチコピーの印象を強めるために紹介したいものを繰り返すことで音楽を構成し、CMソングを完成させます。

■ ユニットで育む音楽的な見方・考え方

手がかりにする〔共通事項〕

音色	リズム	速度	旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成
----	-----	----	----	-------	----	----	----

- ・言葉のリズムや抑揚と旋律との関係
- ・つくった旋律の反復や組み合わせ方
- ・つくった「CMソング」の全体の構成

■ ユニットの学習指導要領の取扱い

A 表現 (3) 創作			
ア	イ		ウ
	(ア)	(イ)	
○		○	○

■ ユニットの目標の設定

知識及び技能	音素材の特徴及び音の重なり方や反復，変化，対照などの構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解する。[イ-(イ)] 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な，課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。[ウ]
思考力・判断力・表現力等	創作表現に関わるイ-(イ)の知識やウの技能を得たり生かしたりしながら，まとまりのある創作表現を創意工夫する。[ア]
学びに向かう力	創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。

■ ユニットの評価規準（観点ごと）

知識・技能	旋律の反復とその効果などから構成上の特徴を理解している。 課題に沿った音や旋律の組み合わせを選択する技能を身に付けている。
思考・判断・表現	創作表現に関わる知識（旋律の反復とその効果などから構成上の特徴）や技能（課題に沿った音や旋律の組み合わせを選択する技能）を得たり生かしたりしながら，まとまりのある創作表現を創意工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，まとまりのある創作表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。

この資料は，一般社団法人教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則っています。

「学びのユニット」 指導計画 2・3年下 F 鑑賞



オペラ「アイーダ」から第2幕 第2場を主要教材にして、音楽と舞台の表現との関わりについて理解し、舞台芸術での音楽の意味や役割を考える学習を展開します。そのため、場面設定や登場人物の心情を理解して曲想を感じ取りながら舞台の表現とともに鑑賞します。バレエ「白鳥の湖」では、オペラ「アイーダ」と比較しながら音楽とバレエや物語との関わりを理解して味わいながら鑑賞します。こうした学習を生かし、「さまざまな舞台芸術」で取り上げられている舞台芸術を鑑賞して音楽の意味や役割への理解を深めます。

■ ユニットで育む音楽的な見方・考え方

手がかりにする〔共通事項〕

音色	リズム	速度	旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成
----	-----	----	----	-------	----	----	----

オペラ「アイーダ」

- ・各登場人物の声の音色や音域
- ・場面に応じた速度、強弱の変化と効果
- ・場面や登場人物に応じた旋律
- ・独唱、重唱、合唱、オーケストラの重なり方や和音

バレエ「白鳥の湖」

※オペラ「アイーダ」の音楽的な見方・考え方を活用

■ ユニットの学習指導要領の取扱い

B鑑賞					
ア			イ		
(ア)	(イ)	(ウ)	(ア)	(イ)	(ウ)
	○			○	

■ ユニットの目標の設定

知識及び技能	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史，他の芸術との関わりについて理解する。[イ-(イ)]
思考力・判断力・表現力等	鑑賞に関わるイ-(イ)の知識を得たり生かしたりしながら，生活や社会における音楽の意味や役割について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴く。[ア-(イ)]
学びに向かう力	鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，生活や社会における音楽の意味や役割について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組む。

■ ユニットの評価規準（観点ごと）

知識・技能	音楽の特徴と，物語の進行や登場人物の心情，舞台の表現との関わりについて理解している。
思考・判断・表現	鑑賞に関わる知識（音楽の特徴と，物語の進行や登場人物の心情，舞台の表現との関わり）を得たり生かしたりしながら，舞台芸術における音楽の意味や役割について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
主体的に学習に取り組む態度	鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，舞台芸術における音楽の意味や役割について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組んでいる。

この資料は，一般社団法人教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則っています。

「学びのユニット」指導計画 2・3年下 G 歌唱



「時を越えて」を教材にして、速度や強弱の設定を生かし、曲の山場（クライマックス）や担当するパートの役割を考えながら合唱で表現する技能を身に付けます。そして、曲想と曲全体の構成との関わりを理解し、全体の響きや他のパートを聴取して指揮やピアノ伴奏も含めて混声三部合唱の表現を工夫します。

■ ユニットで育む音楽的な見方・考え方

手がかりにする〔共通事項〕

音色	リズム	速度	旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成
----	-----	----	----	-------	----	----	----

「時を越えて」

- ・ 強弱や音域に応じた声の音色
- ・ パートの重なり方や役割
- ・ 速度、強弱の変化と効果
- ・ 楽曲全体の構成
- ・ 主旋律のパートとの関係

■ ユニットの学習指導要領の取扱い

A 表現 (1)歌唱				
ア	イ		ウ	
	(ア)	(イ)	(ア)	(イ)
○		○		○

■ ユニットの目標の設定

知識及び技能	曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。[イ-(イ)] 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。[ウ-(イ)]
思考力・判断力・表現力等	歌唱表現に関わるイ-(イ)の知識やウ-(イ)の技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。[ア]
学びに向かう力	歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組む。

■ ユニットの評価規準 (観点ごと)

知識・技能	曲想と全体の構成との関わりについて理解している。 全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う技能を身に付けている。
思考・判断・表現	歌唱表現に関わる知識 (曲想と全体の構成との関わり) や技能 (全体の響きを聴きながら他の声部と合わせて歌う) を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する学習に主体的・協働的に取り組んでいる。

この資料は、一般社団法人教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則っています。

「学びのユニット」指導計画 2・3年下 H鑑賞



歌舞伎「勸進帳」では、唄、三味線、囃子（笛・小鼓・大鼓・太鼓）による表現と舞踊や演技との関連を捉えながら鑑賞し、音楽の特徴とその多様性を理解します。そして、長唄や舞台の表現の特徴を理解し、歌舞伎のよさや美しさを考えながら鑑賞します。これと文楽「義経千本桜」を比較し、音楽表現の共通性や固有性を考えながら鑑賞し、音楽の表現の多様性を理解します。また、「物語を表現するアジアの芸能や音楽」や Let's Try! 長唄「勸進帳」をうたおうを活用して、音楽の多様性の理解を深めそれぞれの表現を聴取します。

■ ユニットで育む音楽的な見方・考え方

手がかりにする〔共通事項〕

音色	リズム	速度	旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成
----	-----	----	----	-------	----	----	----

歌舞伎「勸進帳」

- ・ 長唄や囃子の声や楽器の音色
- ・ 囃子や黒御簾によるリズム
- ・ 場面に応じた速度、強弱の変化と効果
- ・ 場面に応じた旋律やテクスチャ

文楽「義経千本桜」

- ・ 義太夫節の声や楽器の音色
- ・ 場面や登場人物（人形）に応じた語りや唄

■ ユニットの学習指導要領の取扱い

B鑑賞					
ア			イ		
(ア)	(イ)	(ウ)	(ア)	(イ)	(ウ)
		○			○

■ ユニットの目標の設定

知識及び技能	我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。[イ-(ウ)]
思考力・判断力・表現力等	鑑賞に関わるイ-(ウ)の知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。[ア-(ウ)]
学びに向かう力	鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組む。

■ ユニットの評価規準（観点ごと）

知識・技能	歌舞伎や文楽の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。
思考・判断・表現	鑑賞に関わる知識（歌舞伎や文楽の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について）を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
主体的に学習に取り組む態度	鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組んでいる。

この資料は、一般社団法人教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則っています。